

次の世代へ受け継ぐ食文化

市内の小学校では、郷土学習として千葉県の落花生の歴史を学び、栽培から収穫、調理までの体験を行っています。



ピーナッツ和え



米粉の落花みそ
カップケーキ



嚶鳴小の収穫体験(令和7年度)

落花生には、たんぱく質やビタミン、食物繊維などの栄養が豊富に含まれています。市内の学校給食でも、千葉県産落花生を使用したメニューが提供されています。



味わおう、愛そう。千葉の落花生

創業120年の歴史を紡ぐ「株式会社新芳商店」4代目の新行内功さんに、落花生に込める思いを伺いました。



「旭本場」の歴史と、変わらぬこだわり

初代が店を始めた頃の旭は「旭本場」と称されるほど落花生の一大集積地だったそうです。県内中から豆が集まり、殻が火力発電所の燃料になるなど市民の生活を支えました。その品質の高さから、うちでは博覧会に落花生を出品し、記念状もいただいたほどです。しかし、その後の戦争で輸出ができなくなり、旭の生産は一度撤退を余儀なくされました。それでも我が家は代々、商いを続けてきました。

昔から変わらないのは「国産にこだわる」ということ。あえて味付けはせず、素材本来の生きた味を、落花生の本場である旭から全国へ届け続けています。



旭駅の落花生出荷風景
('旭市史'より)

本物の味と歴史を、次の世代へ

これまでで印象に残っているのは、お客様から「落花生って、こんなに味が濃くてパサパサしていないんだ!」と驚かれたことです。私たちがこだわり抜いた本物の味に触れ、そんな風に感動していただけてうれしかったです。

旭の地で落花生の歴史に関わる者として、もっと落花生を作ってくれる生産者が増えてくれたらうれしいです。県内だけでなく、味の良さや歴史も含めて「落花生」をもっと深く知ってもらえるように、これからも魅力をアピールしていきます。

株式会社新芳商店

(旭市口の952)

代表取締役 新行内功さん

明治40年の創業以来、旭の地で落花生の集荷・加工・販売を代々継承。現在は千葉県落花生協会副会長も務める。



落花生ができるまで

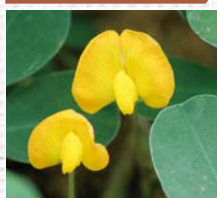
1 播種 (はしゅ)



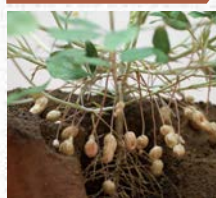
2 成長



3 落花生の開花



4 地中にもぐる



5 地干し (じぼし)



6 ぼっち積み





千葉県落花生導入150周年

千葉の落花生は、 旭の土から広まった?



県では、150周年を盛り上げるため、落花生の魅力を発信するさまざまな事業を実施しています。

千葉県の特産品といえば落花生。現在、国内で流通する国産落花生の約8割が県内で生産されています。今年は、千葉の地に落花生がもたらされてから150周年の節目。実は、千葉県の落花生が一大産地として広がるきっかけを作ったのは、ここ「旭市」でした。



150年の歩み、旭市からはじまった物語

千葉県の落花生栽培は、明治9年(1876年)に現在の山武市で種子を取り寄せ、試作が行われたのが始まりとされています。旭市鎌数に暮らしていた金谷総蔵は、地質や作物を熱心に研究し、所得の向上につながる新たな作物を導入することを模索していました。そして明治10年、県の落花生奨励事業にいち早く名乗りを上げ、栽培と販売に尽力。その結果、旭市を中心として県内各地へ落花生産地が育成されていきました。多くの農家に富をもたらしたこの功績が称えられ、地元の鎌数伊勢大神宮境内には顕彰碑が建立されました。



金谷総蔵



ちょっと深掘り! ミニ展示 「あさひの落花生」

金谷総蔵や地域の落花生について紹介。

期間／令和9年3月31日(水)まで
場所／市役所1階 歴史を学ぶ場
問い合わせ先 生涯学習課文化振興班
(☎85-8628)



もっと深掘り!

大原幽学記念館 秋の企画展

「落花生の父 金谷総蔵と旭」



期間／10月10日(土)～12月6日(日) 午前9時～午後4時30分

※月曜日(月曜日が祝日の場合は火曜日)、祝日の翌日は休館。

入館料／大人：300円、小・中学生、高校生：200円

内容／落花生の生産地としての歩みや、金谷総蔵の顕彰碑・古文書などの紹介

関連イベント／●講演会「千葉県の落花生について」千葉県農林総合研究センター落花生研究室長 津金胤昭氏：11月28日(土) 午後1時30分～3時

●展示解説会：10月10日(土)、11月8日(日)、12月5日(土) 午前11時～、午後2時～

●ワークショップ「落花生の殻でつくる ほっこりマグネット」：10月24日(土)、11月15日(日) 午前10時～午後3時

問い合わせ先 大原幽学記念館(☎68-4933)



落花生の碑(市指定有形文化財)